

【目的】介護施設における入居者の薬は定期往診だけでなく、複数医療機関の受診により処方される場合がある。これらの処方薬が適切に管理されないと、重複投与や相互作用の危険性が高まることから、薬剤師の訪問管理により全ての処方薬を一元管理することが安全面において非常に重要である。そこで当社では、介護施設における一元管理の確立を目的として本検討を行った。

【方法】当社提携の介護施設 9 施設における定期往診および他医療機関の処方箋応需枚数から、入居者の医療機関受診状況について調査した。また、各施設の担当薬剤師に対して現状における処方薬の管理方法について確認し、それを基に一元管理が可能な服薬管理表を考案した。そして、4 施設において服薬管理表を導入し、それによる効果を担当者からのアンケート調査にて評価した。

【結果】介護施設において応需した処方箋のうち、定期往診以外の他医療機関が占める処方箋の割合は 7.8%であった。服薬管理表の導入により、重複投与や相互作用を防止できたことに加えて、往診同行や処方設計時における医師からの質疑応答に役立つという事例があった。その一方で、服薬管理表のデータベース作成や更新作業に時間がかかるという欠点もあった。

【考察】介護施設において複数医療機関を受診している入居者に対しては全ての処方薬を一元管理する必要がある。当社で考案した服薬管理表は、作成および更新作業に時間を要するものの、安全面の強化や往診の支援に対して一定の効果を示した。今後は、服薬管理表を効率良く運用できる方法の検討や内容の改善を行い、処方薬の一元管理を含めた訪問薬剤管理指導業務の充実に活かしていきたいと考えている。